

化学工学会 エネルギー部会 熱利用分科会 第36回研究会 開催報告

平成30年10月29日(月)

平成30年10月29日(月)、神戸水素コージェネレーションシステムエネルギーセンターにおいて、エネルギー部会熱利用分科会第36回研究会を日本伝熱学会関西支部伝熱技術フォーラムと共同開催し、合計30名の皆様にご参加いただきました。

今回は「国際水素サプライチェーンの実現に向けた取り組みと、『水素コージェネレーションシステム(CGS)活用スマートコミュニティ技術開発事業』実証施設の見学」と題して、川崎重工業株式会社様のご協力の下、1件の講演ならびに実証施設の見学を行いました。

講演会では川崎重工業株式会社の井上健司氏に「国際液化水素サプライチェーンの実現に向けた川崎重工の取り組み」と題して、水素利用の動き、水素サプライチェーンのコンセプト、インフラ技術ならびにプロジェクトの展開をご紹介いただきました。水素利用の現状から将来展望までを非常に分かりやすくご説明いただき、水素の大量利用に向けた動きが着実に進みつつあることを実感しました。

また、見学会では、水素ガスタービン用水素燃焼器の開発状況ならびに水素CGS実証プロジェクトの概要説明を受けた後、世界で初めて市街地

で水素を燃料としたガスタービン発電により熱と電気を近隣施設に供給するエネルギー供給システムを見学させていただきました。水素を利用するために組み込まれているさまざまな工夫について、実証施設を見ながら詳細に説明していただきました。

研究会終了後の意見交換会では、化学工学、伝熱工学の研究者が多岐に亘る話題について楽しく議論しながら、相互交流を深めました。

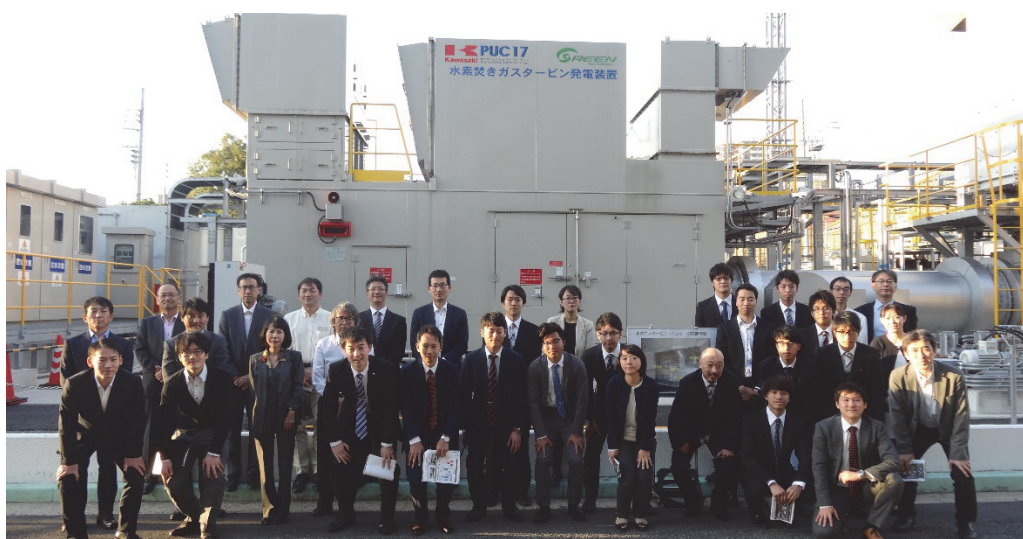
最後になりましたが、本研究会の開催にあたり、会場の準備、受け入れ、ご講演をしてくださりました川崎重工業株式会社様に感謝申し上げます。

(研究会担当：藤岡 恵子)

(熱利用分科会代表：窪田 光宏)



講演中の川崎重工業井上様



集合写真